

看護短大卒業後の現状とキャリアアップへの意識（第1報）

— 大学院教育に関する卒業生への調査 —

古城 幸子*・土井 英子・澤田 由美

看護教育学

(2010年11月17日受理)

今回、看護短大卒業生に対し、キャリア形成の現状と大学院へのニーズ、教育内容への期待について調査を行った。回答した252名のうち82.7%が母校の大学院設置は「望ましい」と回答していた。回答者の24.6%がキャリアアップのために進学したいと考えていることが分かった。進学をした場合の職業継続については、半数以上が継続をしたいと考えており、通信教育制度や土日・祝日の開講などの履修方法に工夫が必要であることが示唆された。大学院の設置に向けて具体的な検討課題が明らかになった。

はじめに

現在、看護専門職者のキャリア形成の一つとして、大学院への進学が徐々に認識されてきた。2009年度のデータでは、博士課程は55大学、修士課程は117大学が大学院教育をおこなっている。2010年度の文部科学省の法改正において、看護師国家試験受験資格の第1に4年制大学卒業者が明記されたことから、看護基礎教育において今後は4年間の教育期間が基本となる可能性が示された。そのため基礎教育終了後のキャリア形成として、大学院教育は選択肢の一つとして期待は大きくなると思われる。

2008年度に4年制大学への移行に関する卒業生への調査¹⁾においても、リカレント教育への期待が多く、四大に求める教育内容について、高度な専門性や看護研究能力を身につけることを望む意見が多数あった。卒業生の多くは、4年間の基礎教育の中では達成できない教育内容への期待があり、大学院教育の必要性が示唆された。

今回、看護短大卒業生に対して、キャリア形成の現状と、大学院へのニーズ、母校の大学院設置に対する希望を把握するために調査を行った。その結果、いくつかの検討課題が明らかになり、今後の大学院設置に向けての具体的な方向性が示唆された。

I. 研究目的

新見公立短期大学看護学科卒業生を対象として、大学院への進学希望の意識調査を行い、新見公立大学大学院設置の必要性を明らかにすることを目的とする。

II. 研究方法

1. 調査対象：A短期大学看護学科卒業生のうち、第1期生から第28期生の住所が明らかな1174名。
2. 調査期間：2010年7月から2010年9月
3. 調査方法：郵送による自記式構成的質問用紙による調査。卒業生に配布する7月7日発行のA短大学報に同封し、住所の明らかな看護学科卒業生1,174名に発送した。そのうち住所変更等で宛先不明の35名を除いた1,139名が対象である。留め置き後、9月末までに返送されたものを分析対象とした。
4. 調査内容：属性では、居住地域、年齢、勤務場所など。現在の仕事に関しては、資格、職位、専門領域など。キャリアアップに関しては、希望、大学院設置への期待など。
5. 分析方法：単純集計を行い、自由記述に関しては内容分析によってカテゴリー化した。
6. 倫理的配慮：2010年度5月、新見公立大学倫理審査委員会の承認を得た。同封した質問紙の表に、1. 研究目的以外には使用しない。2. 調査対象者の同意は自由意思とし、いつでも協力を撤回ができることを保証する。3. 返信をもって同意を得たものとする。4. 匿名性を確保し、個人情報保護を遵守する、と明記し、返信を持って同意を得たと考えた。

III. 結果

回収は252名（回収率22.1%）。分析対象者の平均年齢は35.4歳、平均勤務期間は8.8年であった。回答者の割合（%）

*連絡先：古城幸子 看護学部看護学科 新見公立大学 718-8585 新見市西方1263-2

は無回答の人を除いた回答者数における割合を示している。

1. 対象者の属性（表1）

1) 現在居住している地域

中国地方在住者が126名（50.0%）で、次に近畿地方に56名（22.2%）、九州沖縄地方に30名（11.9%）、次いで四国20名（7.9%）関東14名（5.6%）、東海6名（2.4%）であった。全体の92%が西日本在住であった。

2) 最終学歴（表2）

無回答の2名を除く250名のうち、短期大学卒業後学士を取得したものは21名（8.6%）、修士を終了したものは6名（2.4%）博士課程を修了したものはいなかった。卒業後に学士以上の学位取得を目指したものは11%であった。

3) 持っている資格（表3、複数回答）

無回答の1名を除く251名のうち持っている資格は、看護師以外にケアマネジャー42名、保健師38名、養護教員27名、

助産師15名、訪問看護師10名、認定看護師6名、専門看護師1名であった。複数の資格を取得しているものは、101名（40.2%）であった。

4) 現在の職場での資格と専門領域（表4）

無回答の26名を除く226名のうち、現在の職場での資格は、看護師160名（70.8%）、保健師21名（9.3%）、助産師14名（6.2%）、養護教員5名（1.8%）、看護教員7名（3.1%）、その他6名（2.7%）、無職9名（4.0%）であった。

専門領域は、成人看護に関する領域で勤務している人が91名（41.7%）で最も多く、90名が看護師として、1名が教員であった。次に地域看護では30名（13.8%）で、保健師17名、看護師10名、その他3名であった。老年領域には22名（10.1%）、看護師20名、看護教員1名の職種であった。続いて、母性、小児、精神領域に従事していた。

5) 勤務施設（表5）

回答のあった218名のうち、病院に勤務が129名（59.2%）、次に行政機関22名、診療所21名、福祉施設21名で同率約10%、教育機関が15名で（6.9%）であった。

6) 勤務の職場での立場（表6）

スタッフ・プリセプター、実習指導者を合わせて150名（72.1%）で、係長から部長までの管理職が38名（18.3%）

表1 現在の住所

	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州沖縄	計
数	0	0	14	0	0	6	56	126	20	30	252
%			5.6			2.4	22.2	50.0	7.9	11.9	100

表2 最終学歴

	短大	学士	修士	博士	計
数	223	21	6	0	250
%		8.4	2.4		

表3 資格（複数回答）

	看護師	保健師	助産師	ケアマネジャー	訪問看護師	認定看護師	専門看護師	養護教諭	その他
数	247	38	15	42	10	6	1	27	20

表4 仕事の職種

	看護師	保健師	助産師	養護教諭	看護教員	その他	無職	NA	計
基礎	2		2		2		1	1	8
成人	90				1				91
母性	3	1	12						16
小児	7			3	2				12
老年	21				1				22
精神	4				1				5
地域	10	17				3			30
その他	26	3		2		3			34
NA	1						8	25	34
数	164	21	14	5	7	6	9	26	252

表5 勤務施設

	病院	診療所	企業	行政機関	教育期間	老人施設	福祉施設	計
数	129	21	5	22	15	5	21	218

であった。

2. キャリアアップへの意識（表7）

現在、キャリアアップを目指して進学したいと考えている人は62名（24.6%）あった。以下の1）～6）については、この62名の回答者についての内容である。

1）進学と職業継続

進学を実現する際に仕事を継続したい人は36名（58.1%）で、どちらとも言えない18名（29%）、仕事を辞めて進学を考える人は8名（12.9%）であった。

2）進学先

修士課程への進学希望が24名（41.4%）で最も多く、次いで学士22名（37.9%）、博士課程8名（13.8%）であった。

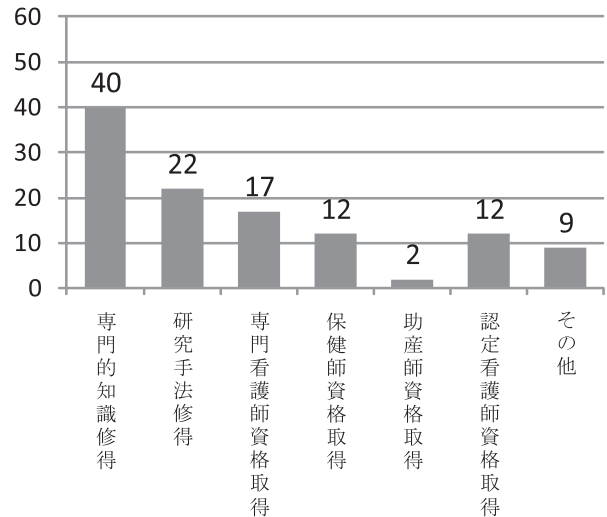


図1 進学目的

3）進学の目的（図1，複数回答）

目的の多い順から、「専門知識の修得」40名，研究手法の修得22名，専門看護師（CNS）の資格取得17名，保健師の資格取得12名，認定看護師の資格取得12名，助産師の資格取得2名，その他9名であった。

4）学びたい分野

成人看護学領域が25名，次いで地域看護学21名，老年看

表6 立場

	スタッフ	プリセプター	実習指導	係長・主任	課長・師長	副部長	部長	助手	助教	講師	准教授	教授	専任教員	教務長	非常勤講師	その他	計
数	131	15	4	27	10	0	1	2	1	1	3	0	1	0	0	16	208

表7 進学への希望は？

1)進学時 仕事継続は？	計	希望する	どちらとも	希望しない						
	62	36	18	8						
2)進学先は？	計	学士	修士	博士	その他					
	58	22	24	8	4					
3)進学の目的？		知識	研究	CNS	保健師	助産師	認定	その他		
	複数	40	22	17	12	2	12	9		
4)分野希望は？		基礎	成人	母性	小児	老年	精神	地域	家族	その他
	複数	10	25	7	8	15	12	21	11	6

護学15名, 精神看護学12名, 家族看護学11名で, 基礎看護学10名, 母性看護学7名, 小児看護学8名であった。

5) 母校への進学希望 (表8)

強く希望する9名, まあまあ希望する26名を合わせて56.5%が希望すると回答した。あまり希望しない2名, 全く希望しない2名を合わせて6.5%が母校への進学に否定的であった。

6) 学習環境への希望 (表9・図2, 複数回答)

通信教育制度を希望する人は50名 (80.6%), 次いで土日・祝日の開講34名 (54.8%), また, 夜間の開講29名 (46.8), 奨学金制度の充実27名 (43.5%), サテライト教室の整備23名 (37.1%) という希望があった。

3. キャリアアップへの課題

分析対象者252名に尋ねた質問で, 進学によるキャリアアップが図れない要因と, 自由記載による理由の内容分析の結果である

1) 進学考えない理由 (表10, 複数回答)

252名中185名がいずれかの質問項目に回答しており, 必要性がない76名 (41.1%), 今の仕事を辞められない52名 (27.0%), 経済的に困難52名 (27.0%), 通学が困難40名 (21.6%), その他48名 (25.9%) であった。

2) 理由の内容分析 (表11)

理由について自由記述した34名の意見を内容分析した結果, 表11のように37のコードから, 8つのサブカテゴリー (<>で示す) が抽出でき, <出産を優先><子育てを重視する>から「家事との両立を優先したい」, 進学することが<現在の仕事に活用できない><学生になることへの躊躇>などから「必要性を感じない」, <余裕がない><頑張ろうと思えない>から「仕事や家事に伴う疲弊感がある」という3つのカテゴリーにまとめることができた。子育て中であるというコードが最も多く示されていた。

4. 母校の大学院設置に関する意見

1) 大学院設置への賛否 (表12)

回答した243名のうち, 大学院設置を望ましいと回答した人は201名 (82.7%), どちらとも言えないと回答した人は38名 (15.6%), 望ましくないと回答した人は4名 (1.7%) であった。

2) 大学に対する意見 (表13)

自由記載に意見を記述した70名の内容を分析した結果, 87のコード, 19のサブカテゴリー (<>で示す) が抽出できた。<母校の発展はうれしく期待している><母校の教育風土を継続してほしい>などの「母校の発展と後輩たちの活躍に期待する」が27コードでもっとも多い意見であった。次に, <大学院の設置は必要><専門性を高める教育

表8 母校への進学は

母校への進学は?	強く希望する	まあまあ希望する	どちらとも	あまり希望しない	全く希望しない	計
数	9	26	23	2	2	62
	56.5%		37.1%	6.5%		

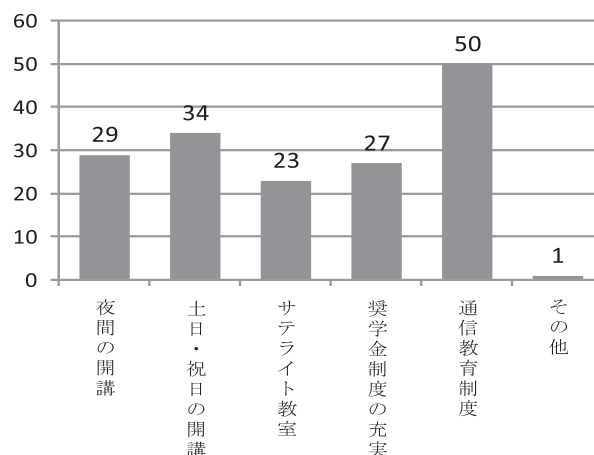


図2 学習環境への希望

表9 学習環境への希望は (複数回答)

学習環境は?	夜間の開講	土日の開講	サテライト教室	奨学金制度の充実	通信教育制度	その他
数	29	34	23	27	50	1

表10 進学考えない理由

理由	辞められない今の仕事	通学困難	経済的に困難	必要性がない	その他
数	52	40	52	76	48

表11 進学を希望しない理由

(コード数)

カテゴリー	サブカテゴリー	コードの一例
家事との両立を優先したい (13)	出産を優先する (2)	結婚、出産したため
	子育てを重視する (11)	育児中、今は考えられない
必要性を感じない (12)	仕事に活用できない (2)	仕事に活かすことができない
	進学に関心がない (3)	勉強してみたいことがない
	学生になることに躊躇する (3)	勤続年数が短いので現在は考えられない
	本学への進学は考えていない (4)	現在通信教育を実施中
仕事や家事に伴う疲弊感がある (12)	余裕がない (6)	家庭との両立が困難
	頑張ろうと思えない (6)	年齢的に限界を感じている

表12 母校の大学院設置は？

	望ましい	どちらとも	望ましくない	計
設置は				
数	201	38	4	243

を望む>などの「看護の質を高め、専門性を深める大学院設置は必要」が23コードで、＜学習方法に工夫をしてほしい＞＜教育環境の整備が課題＞といった「大学院の教育内容や方法に工夫を期待する」が20コードであった。コード数は少ないものの、＜進路選択の幅が広がる＞などの「学部卒業生の進路選択肢が増える」、＜開学時期をもう少し様子を見てから＞などの「設置に対する不安がある」という5つのカテゴリーにまとめることができた。

表13 本学への要望・意見

(コード数)

カテゴリー	サブカテゴリー	コードの一例
母校の発展と後輩たちの活躍に期待する (27)	母校の発展はうれしく期待している (20)	母校の発展うれしい
	新見の教育風土を継続してほしい (4)	従来の新見の教育の良さを大学院でも
	優秀な後輩たちの活躍が楽しみ (3)	素晴らしい後輩が全国で活躍してほしい
看護の質を高め、専門性を深める大学院設置は必要 (23)	大学院の設置は必要 (8)	大学院の設置に期待
	専門性を高める教育を望む (8)	専門化が進んでいるのでぜひ実現を
	看護の質向上のために必要 (5)	看護の質向上のためにも必要
	社会的地位の確立に必要 (1)	看護専門職の地位確立に必要
大学院の教育内容や方法に工夫を期待する (20)	余裕のある教育になる (1)	余裕のある教育になる
	学習方法に工夫をしてほしい (10)	働きながら学びやすい環境を
	教育環境の整備が課題 (6)	文献等の学習環境が課題
	教員の質向上が課題 (2)	教員の質向上が課題
学部卒業生の進路選択肢が増える (12)	現場と教育の連携が大切 (2)	現場と一体となった研究をしたい
	進路選択の幅が広がる (9)	進学する学生にとっては選択肢が増えて良い
	資格取得のできるコースを望む (2)	専門の資格取得を望む
	学部入学生の確保には必要 (1)	優秀な学部学生の確保のためにぜひ必要
設置に対する不安がある (5)	開学時期をもう少し様子を見てから (2)	もう少し様子を見てはどうか
	母校が遠くに感じる (1)	母校が遠くに感じる
	良くわからない (1)	良くわからない
	学歴の必要性はない (1)	学歴の必要性はない

Ⅳ．考察

2008年の四大化への調査²⁾は、今回と同様に配布回収したが、回答数155名、回収率は13.4%の低率であった。今回は回収数252名、回収率22.1%と上昇していた。前回の四大化への調査は卒業生にとって直接的な関係がなく、今回は生涯学習に関連した調査であったため、関心が高いものであったと推測できる。

また、母校に大学院設置が検討されていることへの期待は大きく、82.7%が「設置は望ましい」と回答しており、自由記載の意見においても「母校の発展に期待する」といったエールが寄せられた。

2008年度の四大化に対する調査においても、母校愛が示された結果が得られ、卒業生の母校に対する帰属意識の強さが表現されたものと考えられる。

*キャリアアップへの期待

松下ら(2009)³⁾の現任看護職者への調査では、15%が大学院への入学意思を持っていると報告している。今回の調査対象者では、キャリアアップを目指して進学したいと考えている人が24.6%あり、卒業生の生涯学習への意欲の高さを示していた。進学希望者の中でも41.1%が修士課程を希望しており、短期大学卒業生にも開かれた大学院として設置する必要がある。進学の目的の多くは、専門知識の修得、研究手法の修得が挙げられた。安藤ら(2009)⁴⁾の調査でも、臨床看護師の大学院への入学動機となる課題は、臨床看護全般に関する課題、専門性に関する課題、看護管理、看護教育などが挙げられた、と報告している。また、近藤ら(2005)⁵⁾も全国の修士課程に在籍する学生を対象にした調査、入学動機は「勉強の必要性を感じた」「幅広い視点で看護を見直したい」「研究能力を身につけたい」などが挙げられている。

今回の調査対象者も保健師・助産師・認定看護師等の資格取得に期待するといった回答もあったが、より、現場の看護の質の向上、あるいは研究のスキルアップを図るという目的をもっていることが分かった。平井ら(2002)の調査⁶⁾によると、看護管理者は、「看護の質向上」や「職場の活性化」「教育、研究、指導者に活用」するために大学院修了者を採用したい、あるいは、相手次第で採用したいと希望する者が66%あり、職場の採用ニーズは高い傾向が見られたと述べている。

*大学院設置への課題

進学をした場合の職業継続については、半数以上が継続をしたいと考えていた。松下ら⁷⁾の報告でも希望者の8割は仕事の継続を望んでいるとの報告があり、職業継続が看護職の大きな進学条件になることが分かった。そのため、履修環境や体制についても、進学希望者の8割が通信教育制度を希望し、半数が土日・祝日の開講、夜間の開講を望んでいることから、平井ら⁸⁾の結果と同様に、社会人入学

卒の検討が重要になると思われる。一方で、松下ら⁹⁾は、進学希望者の9割が「経済的」「学業と仕事との両立」「学力」「入学試験」に関する不安を持っていると述べており、奨学金制度の充実や、入学試験内容の検討が必要であることが示唆された。

自由記載の意見からも、「大学院の教育内容や方法に工夫を期待する」にまとめられた意見の内容は、学習方法や学習環境の整備の他に、教員の質向上、現場と教育との連携の必要性などの課題が上がっており、ハード・ソフト両側面の整備が求められた。

一方、日本看護学教育学会の2010年の提言¹⁰⁾の中でも、教員の担当する学生数や社会人学生の履修への配慮によって教員の負担が大きくなり、重要な検討課題であるとしている。また、教員の質向上のための「研修・研究支援」や教育研究費の充実が大学側に求められる。

*教育内容への期待

学びたい分野では、成人看護学、地域看護学、老年看護学に関心が高かった。これは、現任看護職の多くが成人看護系の現場で活躍していること、本学の地域性や教育の特色から地域看護学、老年看護学への関心が高いと推察する。また、進学希望の約半数が母校への進学を視野に入りたいと考えていることから、それらのニーズに応えるために、研究フィールドの開拓や、カリキュラムの独自性を検討する必要があると示唆された。

V．今後の課題

以上のことから、大学院設置に対する今後の検討課題として、以下の点を示された。

1. 現任看護職のニーズに対応した科目設定などの大学院カリキュラムの検討
2. 夜間開講・サテライト教室などの社会人入学生に対する履修方法の検討
3. 大学院教育に対応できる学習環境や教員の質の担保などのハード・ソフト面の強化

謝辞

本調査にご協力いただいた卒業生の皆様に感謝いたします。

文献

- 1) 古城幸子, 上山和子, 福岡悦子, 宇野文夫, 神原光, 岸本務, 鹿島隆: キャリア形成を促進する看護基礎教育への課題—短大卒業生の母校四大化への期待—, 新見公立短期大学紀要, 29, 12-128, 2008.
- 2) 1)と同様
- 3) 松下年子, 岡部恵子, 天野雅美, 内野聖子, 吉岡幸子,

- 安藤晴美，大野明美：大学病院関連医療施設に就業する看護師の大学院修士課程入学への関心，日本看護研究学会雑誌，32（4），39-50，2009.
- 4）安藤晴美，松下年子，岡部恵子，天野雅美，内野聖子，吉岡幸子，大野明美：臨床看護師が業務遂行の中で抱える問題意識と課題－大学院入学ニーズ調査の結果から－，埼玉医科大学保健医療学部看護学科紀要，61-66，2009.
- 5）近藤由香，渋谷優子，坂井水生，大木友美，奥山貴弘：看護系大学院修士課程学生の入学志望動機・目的とその関連要因，日本看護研究学会誌，28（1），101-107，2005.
- 6）平井きよ子，海老真由美，山田聡子，箕浦哲嗣，村山正子，草刈淳子：看護職の大学院進学ニーズに関する調査，愛知県立看護大学紀要，8（33），33-40，2002.
- 7）3）と同様
- 8）6）と同様
- 9）3）と同様
- 10) 日本看護学教育学会：看護学教育の教育環境に関する実態と質向上に資するための提言，2010.

**Conditions after Graduation of Junior College of Nursing and Awareness of Career Progression
(The first report)
— Survey of graduates on graduate education —**

Sachiko KOJO, Hideko DOI, Yumi SAWADA

Department of nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This time we surveyed the graduates of junior college of nursing on actual conditions of career forming, needs for graduate school and expectation. 82.7% of the 252 respondents answered that the establishment of graduate school in their alma mater is desirable. 24.6% showed that they are eager to go on to graduate school to further their careers. More than half think that they would like to continue to work even if they enter graduate school. This suggests that a devised curriculum, such as correspondence education and weekend or holiday course, is required. This survey clarified the concrete issues to consider toward the establishment of graduate school.